

**製品名:** コルタクチン (アセチル Lys235) ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab06178

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	62kDa

## 抗原情報

遺伝子名	CTTN
別名	CTTN; EMS1; Src substrate cortactin; Amplexin; Oncogene EMS1
遺伝子 ID	2017.0
SwissProt ID	Q14247
免疫原	K235 のアセチル化部位周辺のヒトコルタクチンの内部領域から得られた合成アセチルペプチド。

## 背景

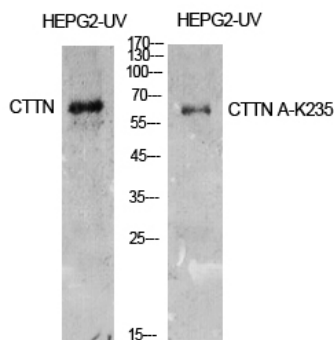
コルタクチン(CTTN) Homo sapiens この遺伝子は、乳がん、頭頸部扁平上皮がんにおいて過剰発現している。コードされているタンパク質は、細胞質および細胞基質接触部に局在している。この遺伝子には 2つの役割がある: (1) 接着型結合の構成要素間の相互作用

を制御すること、(2) 上皮細胞およびがん細胞の細胞骨格および細胞接着構造を組織化すること。アポトーシスの過程で、コードされているタンパク質はカスパーゼ依存的に分解される。この遺伝子の異常な制御は、腫瘍細胞の浸潤および転移に寄与する。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする3つのスプライスバリエントが同定されている。[RefSeq 提供、2010年5月]、機能:細胞構造の組織化に寄与する可能性がある。SH3モチーフは、細胞骨格への結合領域として機能する可能性がある。形質転換細胞におけるチロシンリン酸化は、細胞増殖制御および形質転換に寄与する可能性がある。、オンライン情報:コルタクチンエントリ,類似性:1つのSH3ドメインを含む。、類似性:7つのコルタクチンリピートを含む。、細胞内局在:膜ラッフルおよびラメリポディアと関連する。、サブユニット:SH2ドメインを介してSHANK2およびSHANK3と相互作用する。また、FGD1とも相互作用する(類似性による)。PLXDC2とも相互作用する。、

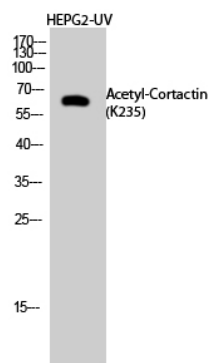
## 研究分野

タイトジャンクション;病原性大腸菌感染症;

## 画像データ



アセチルコルタクチン (K235) ポリクローナル抗体を用いた HepG2-UV 細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



アセチルコルタクチン (K235) ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた HEPG2-UV 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1: 20000 希釈。